

中期目標の達成状況に関する評価結果

豊橋技術科学大学

平成21年3月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

I 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であり、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、2項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(4) 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」で

あり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期目標で「実践的・創造的かつ指導的技術者を養成する」としていることについて、学部、大学院修士課程、大学院博士後期課程の進路目標を設定し、教育成果として明確な数値目標が達成されていること、特に大学院博士後期課程の出口管理が充実していることは、優れていると判断される。
- 中期目標「実践的・創造的思考力を醸成させる教育課程を編成する」について、現代的教育ニーズ取組支援プログラムの支援を得て、PBL (Project-Based-Learning)、公募型卒業研究、大学院修士課程での提案型地域活性化プログラムという魅力的な3つのプログラムが実践されていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「自学・自習を含めた教育環境（学習資料、メディア教育環境等）の充実・強化を図る」としていることについて、施設・機器の整備だけでなく、図書館内に新設した学習サポートルームにティーチング・アシスタント (TA) を配置して総合的に対応していることは、優れていると判断される。
- 中期目標「多方面にわたる学生の生活支援を充実する」について、学習支援、独自奨学金制度を実施していることは、きめ細かい経済支援制度として、独自の工夫とアイデアが盛り込まれ、精度高く実行されている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「成績評価基準を明示した上で厳格に実施する」について、8課程中7課程が日本技術者教育認定機構 (JABEE) 認定を受けていることは、工科系大学の特色を活かした教育を実質化している点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期目標「高等専門学校卒業生をはじめ、工業高校、普通高校卒業生、外国人留学生、社会人等多様な学習歴を有する学生に適切に対応する教育課程を編成する」について、アンケート情報、補習授業、学習サポートルーム、明確な履修コースの設計等のきめ細やかな対応がなされていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画で「ティーチング・アシスタントに対して教育補助者としての資質の向上を図る」としていることについて、TAに対する必要な研修が、配慮の行き届いた計画のもと実施されていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期目標「留学生・社会人学生等に対する修学支援を充実する」について、留学生、社会人学生、障害のある学生に対して、チューター制度等のきめ細やかで親切的な支援制度が整備されていることは、特色ある取組であると判断される。

II 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、4項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期目標で「世界を先導する研究開発を推進し、その成果を社会に還元する」としていることについて、採択された21世紀COEプログラムを実施して拠点形成を行うとともに、グローバルCOEプログラムにも採択され、各拠点の成果を大学院教育に反映し、産学連携の実現に積極的につなげており、地域貢献を活発に展開し国際貢献に寄与していることは、優れていると判断される。
- 中期目標「高度な研究を推進する体制と環境を整備する」について、研究戦略室を設置して活動し、平成18年度には外部資金比率が国立大学中1位となったことは、明確な成果が得られた点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期目標「適切な評価を通して、研究水準の向上と研究開発を促進する」について、

目標評価室の設置がなされていることは、今後、受賞歴や科学研究費補助金等の実績値を用いた研究成果の詳細な分析が期待される点で、特色ある取組であると判断される。

- 中期計画で「国際的共同研究の推進を図るため、「サテライト・オフィス」を設置し、充実を図る」としていることについて、インドネシア、中国に海外事務所を開設し、帰国留学生に対する現地でのケアを行っていることは、特色ある取組であると判断される。

III その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8項目）のうち、4項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(2) 高等専門学校との連携に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「高等専門学校との連携に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期目標「地域社会への貢献のための体制を整備する」について、地域連携室、サテライト・オフィス、工学教育国際協力研究センター、海外事務所の開設等、地域連

携にかかわる活動基盤の整備を行い、それらを拠点とした活動を展開していること、また、ミニ大学院アフターファイブコースや豊橋市図書館との利用協定、相互検索等、工夫を凝らした事業展開がなされていることは、優れていると判断される。

- 中期目標「高等専門学校の資質の向上、発展に向けて、連携強化を図る」について、高専連携室、高専エキスパート教員制度、高専連携教育研究プロジェクト制度等、多様でユニークな制度設計により連携強化を図っていること、特に体験学習生を 100 名以上受け入れるといった大きな数値目標を達成していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「本学職員を各種制度及び各種事業等を活用し、積極的に海外へ派遣する」について、文部科学省等の制度及び事業を有効に活用したほか、独自の海外派遣制度により、海外への職員派遣を積極的に推進していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画で「高等専門学校との人事交流、共同研究の推進」としていることについて、高専連携教育研究プロジェクト制度を設け、43 校の高等専門学校と 104 件の共同研究を実施していることは、特色ある取組であると判断される。